



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員数 481人

コメディカル 356人

医師 125人

管理栄養士派遣登録数 34人

《目次》

～ 糖尿病学会に参加して ～

吉元 勝彦先生……………Page1

平成16年度認定式開催の報告……………Page2

研究会他の開催の報告……………Page3

年間スケジュール、事務局よりお知らせ……………Page4

～ 糖尿病学会に参加して ～

杏林大学 第三内科 吉元勝彦

去る5月11日～13日の3日間、日本糖尿病学会年次学術集会が神戸において開催されました。約8,200名もの参加者があったそうで、その活況ぶりを肌で感じることができました。個人的には自分の発表が初日であったため、残り2日間は余裕を持って過ごせましたし、会場では近藤先生、貴田岡先生をはじめ多くの西東京の先生やコメディカルの方々とお会いすることができ、大変心強い思いをさせていただきました。

さて、今学会での話題のひとつは「メタボリックシンドローム」であったと思います。内臓脂肪の蓄積を必須項目として、脂質・血圧・糖代謝異常の3項目のうち2つ以上を合わせ持つと診断されるものですが、この中の「空腹時血糖 110mg/dl以上」の妥当性についての議論がありました。FPG 110mg/dlを基準とすると、実際はメタボリックシンドロームと診断すべき症例でも見逃されてしまう例が出てきてしまうというものです。つい先日発表された国際糖尿病連盟（IDF）によるメタボリックシンドロームの診断基準では「空腹時血糖 100mg/dl以上」が採用されており、わが国においても空腹時血糖の基準値が110から100mg/dlに引き下げられるようになるのかもしれませんが。

今回もうひとつ気になったことは、ずばり「撮影禁止！」です。特に基礎系の発表では厳しかったようで、口演発表の途中でも中断して写真を撮らないよう注意される場面がありました。その座長によると、米国ならメモリも没収されると力説していました。日本ではそこまではないとしても、少なくともフラッシュを焚くのはマナー違反ではないでしょうか。一方、ポスター会場では当たり前のように撮影されていました。メモを取るのとそう大差ないのでは思いましたが、そのうち「撮影不可」・「OK！」等の札も貼るようになるのでしょうか？

最後に、あるイブニングセミナーで東邦大学の芳野先生が「人類の歴史を1年とすると、飽食の時代が始まったのは12月31日の23時56分50秒から」とお話しされていました。そんな人類史に思いを馳せ、2夜連続して神戸の牛を食してしまった糖尿病学会でもありました。



平成16年度 西東京糖尿病療養指導士認定式の報告

平成17年4月5日（火）立川アイムに於いて開催されました。



西東京糖尿病療養指導士認定委員長 菅野 一男

今回の特別講演は東京医大八王子医療センターの植木彬夫先生に座長をお勤め頂き「糖尿病療養指導士の活動について」というテーマで現在多摩地区にてご活躍されている5名の療養指導士の先輩方から話をさせていただきました。皆様共通して、療養指導の活動はどこでも可能であり、又自分の活動範囲を広げるいい機会になるということを強調していました。東京都多摩老人医療センター中野忠澄先生より以下のようなお祝いの言葉と閉会の辞をいただきました。『療養指導の活動はこの療養指導士認定を機にこれから始まります。また今後は私達は皆仲間であり、共にがんばっていきましょう』

平成16年度12回講座受講者・認定試験合格者を代表して近藤医院の山中様に受講のご感想、合格の喜び、受験勉強のご苦労やコツなどをご執筆いただきました。

近藤医院 看護師 山中 真由美

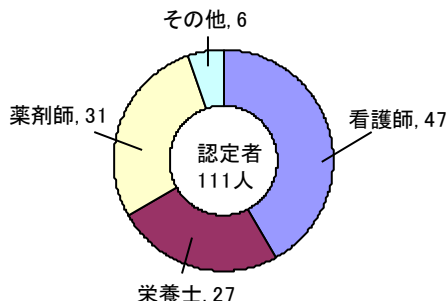
糖尿病専門医院に勤務して3年目になります。院長の『患者さんのために』という信念のもと、勉強熱心で前向きなケアを実践しているスタッフに影響を受け、私も12回連続講座に参加することにしました。参加は決めたものの仕事が終わってから夜の講習会、しかも12回も。「気が重い・・・。」というのが正直なところでした。しかし、いざ参加してみると講義は実践に即して興味深い内容、話の所々で患者さんの顔が浮かんできて、寝ている暇なんてありません。終わってみるとあっという間の貴重な12回でした。職場の先輩達の糖尿病療養指導士資格取得のための努力を傍で見えておりましたので、私も真剣に取り組まなければならない心理状態に追い込まれました。結果は無事合格。ほっと胸をなでおろしました。合格の鍵は、やはり日々の臨床の場にあるようです。患者さんがより良い状態でセルフケアが出来、楽しい人生が送れるように、患者さんと共に考え、スタッフと共に考えていくことで※CDEに必要な技能が身についていくのではないかと考えています。そして、今回の講習会及び試験は療養指導に必要な知識の再確認にとっても有意義なものでした。ボランティアで講義してくださった心の広い先生方、本当にありがとうございました。これから先輩と共にCDEとして何ができるか、自分に問いかけながら患者さんや地域社会のお役に立てるよう、日々精進していきたいと思っています。

※CDE…Certified Diabetes Educator(糖尿病療養指導士)の略



12回講座受講、認定試験合格者状況

平成16年度認定試験合格者職業別内訳



連続12回講座受講者

190名

認定試験

2月13日(日)実施	
参加者	138名
平均点	75点
最高点	94点
最低点	31.5点
合格者数	112名
認定者数	111名
合格率	81.20%

研究会他の開催報告

第32回多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会の報告

平成17年4月18日 多摩北部医療センターに於いて開催されました。



当日は予想を上回る56名の方に御参加をいただきありがとうございました。会場内が混雑し、行き届かない点があったことをお詫び申し上げます。

山田医院山田智政先生より「持効型インスリン(ランタス)と α -G I (ベイスン)の併用療法にて治療中の緩徐進行型1型糖尿病の1例」、よつ葉薬局笠原徳子先生より「症例1: パーキンソンおよびダンピング症候群を伴う高齢者糖尿病の不安」、「症例2: 複雑な糖尿病薬の服用をまとめてみたい」以上の症例を提示していただき、様々な職種の方から活発な意見や本音が飛び交いました。主治医が診断に至る過程や薬剤の処方意図なども理解することができました。

また、笠原先生の症例2の提示を受けて、当院でも α -G I が処方されていると糖尿病以外の薬も可能な場合は食直前にまとめて服用する処方が増えてきたようです。

第2回糖尿病食を作って食べて学ぶ会の報告

平成17年4月28日 立川女性総合センターアイムに於いて開催されました。

NPO法人西東京臨床糖尿病研究会管理栄養士派遣事業

登録管理栄養士 飯塚 理恵

前回は一施設の患者様から参加を募りましたが、今回は当会会員の診療所に開催をお知らせし、広く参加者を募集したところ、6施設14名の方のご参加を頂きました。今回は献立のなかに季節の魚である鯖を使用し、また、最近話題になっている α -リノレン酸を多く含むしそ油(エゴマ油)を取り入れました。

当日ははじめに高村内科クリニックの高村管理栄養士より日常の食事を作る際のポイントなどをお話し、次に登録栄養士の深浦管理栄養士より本日の献立の調理方法の説明があり、実習に入りました。患者様は同じ班の方々とお話をしながら和気あいあいと楽しそうに調理されていました。他施設の患者様が集まっていますので、患者様同士で情報交換などもされていたようです。今回は2組のご夫婦の参加を頂きましたが、両方のご主人様が上手にレタスを切って腕前を披露して下さいました。予定より少し早めに料理も仕上がり、試食後は各班ごとに感想やご意見をお聞きしました。皆様の感想の中には「楽しかった」「また参加したい」といったお言葉も頂きましたが、たまたまポスターを目にして申し込んだが、次回開催の日程のお知らせはどのようになるのかといった質問や、開催場所の説明が不十分で分かりにくかったといったご意見も頂きましたので、今後の検討課題にして行きたいと思います。この会は今後も年3回程度のペースで実施していく予定ですので、皆様の施設にも開催のお知らせが届きましたら、是非患者様にお声をかけていただければと思います。どうぞ宜しくお願いします。



当日のレシピ表紙です



年間スケジュール

◇西東京糖尿病療養指導プログラム 《教育看護系 / 病態栄養系 / 薬剤系》

※事前申込みが必要です。事前申込のない当日参加不可。

開催日 : 平成17年6月19日(日)

教育看護系・病態栄養系・薬剤系 各部会共:西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位:10単位

・教育看護系(小金井公会堂) 定員:500名 日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《一群》:4単位

第一部:「ヒヤリハット」からみた糖尿病薬の安全管理

京都大学医学部附属病院 看護部長 嶋森 好子氏

第二部:「楽しくてためになる」糖尿病教室

独立行政法人国立病院機構京都医療センター 予防医学研究室長 坂根 直樹氏

・病態栄養系(国分寺Lホール) 定員:180名 日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《一群》:2単位

病態栄養系は定員に達しましたので、募集を締め切らせていただきました。

・薬剤系(国分寺労政会館) 定員:130名 日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《一群》:2単位

特別講演:「患者様と共に歩む療養生活」 済生会福岡病院薬剤部 虎石 颯一氏

参加費 : 4,000円

申込方法 : まず資料請求:インターネットより資料請求 定員になりしだい締切り

URL: <http://www.nishitokyo-dm.net/whatsnew.html>

ホームページをご覧になれない方は事務局までご連絡ください。TEL: 042-322-7468

◇第13回 多摩糖尿病チーム医療研究会(薬剤分科会)

※事前申込みは不要です。直接会場までお越し下さい。

開催日 : 平成17年6月24日(金)

場 所 : 国分寺Lホール(国分寺ターミナルビル8F)

参加費 : 500円

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位:申請予定

◇第4回 西東京CDE研究会総会

※事前申込みが必要です。事前申込のない当日参加不可

開催日 : 平成17年7月9日(土) 17:30~20:35

場 所 : 府中グリーンプラザ けやきホール

参加費 : 1,000円

申込方法 : 往復はがきによる事前申込(締切:17年6月15日(水))

詳細はホームページ又は事務局までお問い合わせください。

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位:4単位

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《二群》:申請中

◇第38回 NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会例会

※事前申込みは不要です。直接会場までお越しください。

開催日 : 平成17年10月1日(土)

場 所 : 国分寺Lホール(国分寺ターミナルビル8F)

参加費 : 会員 無料、非会員 1,000円

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位:6単位

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《二群》:申請予定

<事務局よりお知らせ>

毎月第一木曜日 午前10時~午後3時まで当研究会登録管理栄養士による電話ファックス・メールでの無料栄養相談を行っています。会員様施設の患者様にお知らせくださいますよう、ご協力の程お願い申し上げます。

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 栄養相談窓口

TEL/FAX:042-322-7517 Email:eiyououdan@nishitokyo-dm.net



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 リントプラザ 402 TEL: 042(322)7468 FAX: 042(322)7478

<http://www.nishitokyo-dm.net> E-mail: w_tokyo_dm_net@ybb.ne.jp

開催のお知らせ

第32回 多摩老人医療センター(多摩北部医療センター)との糖尿病に関する診療連携の会

日 時 : 平成17年4月18日(月) 19:30~21:00

場 所 : 多摩老人医療センター 2階 大会議室
(多摩北部医療センター)

会 費 : 無 料

申込方法 : 事前申込は不要、当日会場へ直接お越し下さい。

※西東京糖尿病療養指導士認定更新単位 : 1単位

プログラム

- (1) 「持効型インスリン(ランタス)と α -G I(ベイスン)の
併用療法にて治療中の緩徐進行型1型糖尿病の1例」
山田医院 山田 智政先生
- (2) 「症例1: パーキンソンおよびダンピング症候群を伴う高齢者糖尿病の不安」
「症例2: 複雑な糖尿病薬の服用をまとめてみたい」
「標準的服薬支援のための」
糖尿病ファーマシューティカル・ケア・パス(PCP)の作成」
よつ葉薬局 笠原 徳子先生

連絡先: 東京都多摩老人医療センター

医事課 地域連携担当 浅 見

TEL 042(396)3811 内2073 FAX 042(391)8005

第13回 武蔵野糖尿病研究会

日 時 : 平成17年5月21日(土) 15:00~17:00

場 所 : 武蔵野赤十字病院三番館 1階 山崎記念講堂

会 費 : 500円

申込方法 : 武蔵野赤十字病院内 武蔵野糖尿病研究会事務局へ連絡

TEL: 0422-32-3111 FAX: 0422-32-9551

申込締切 : 平成17年4月30日(土)

※西東京糖尿病療養指導士認定更新単位 : 1単位

プログラム

第1部

- ① 『血糖コントロールの改善に伴い網膜症の悪化を示した一例』
武蔵野赤十字病院内分泌代謝科
山口美菜、谷祐至、松尾祐子、松下美加、菅野一男先生
- ② 『この一年印象に残った糖尿病網膜症患者の解析』
伊藤内科小児科クリニック院長 伊藤 眞一先生

第2部

『糖尿病網膜症の真相』

荻野 誠周氏

開催のお知らせ

第10回 武蔵野糖尿病医療連携の会

謹啓 時下益々ご清栄の段、お喜び申し上げます。

第10回武蔵野糖尿病医療連携の会を下記の日程で開催いたしたいと存じます。本会は日常の糖尿病診療の現場で生じる問題を取り上げ、明日からの診療に直ちに役立つことを目指しております。

前回は、外来インスリン療法をテーマとさせていただきましたが、今回はさらに外来でインスリンを導入する際の患者指導の実際について、また医薬連携でのインスリン処方/指導の問題点について、「明日から始める外来インスリン療法PART 2」という課題でとりあげてみたいと存じます。

当日は多数の先生方のご参加を、心よりお待ちしております。

謹白

代表世話人 伊藤内科小児科クリニック 伊藤 眞一

日 時 : 平成17年4月23日(土) 17:00~19:00
 会 場 : ザ・クレストホテル立川
 (立川市錦町1-12-1 電話:042-521-1111)
 会 費 : 医師 1,000円、医師以外 500円
 申込方法 : メールにて参加希望とお送りください。
 (府中病院 辻野 元祥宛 mtsujino@fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp)

※西東京糖尿病療養指導士認定更新単位:1単位

プログラム

1. 17:00~17:25 「医療機関を対象としたインスリンアンケートの集計結果」
 座長: 西東京警察病院 内科 桑木 綱一 先生
 演者: 東京都立府中病院 内科 辻野 元祥 先生
2. 17:25~18:00 「自己血糖測定とインスリン量調整をどのように指導するか」
 座長: ふじまきクリニック 藤巻 正樹 先生
 演者: 東京都立府中病院 内科 西田 賢司 先生
3. 17:00~18~35 「sick day ruleをどのように指導するか」
 座長: 府中よつやクリニック 市川 雅 先生
 演者: 立川相互病院 内分泌代謝科 住友 秀孝 先生
4. 18:35~19:00 「医薬連携におけるインスリン指導の調剤薬局の関わり方」
 座長: 伊藤内科小児科クリニック 伊藤 眞一 先生
 演者: アポロン薬局 鎗城 正則 先生

<事務局よりお知らせ>

今回同封いたしました第37回 例会・総会のご案内の中に委任状(ハガキ)が入っております。総会を欠席される方は必ず委任状を事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます。

また、次号会報に平成17年度の会費お支払いのお知らせを同封させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。